

# 1 昆虫を指標とした里山広葉樹林の評価手法 及び管理手法に関する調査（第1報）

予算区分：国 補  
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 13 年～15 年度  
担当者名：江崎功二郎  
小谷 二郎  
矢田 豊

## ．目的

石川県におけるナラ類集団枯損は平成 9 年に発生して以来、被害が拡大している。この被害は標高約 600m 以下の里山森林で発生するため、被害対策が急務である。この調査では被害拡大様式を解明するとともに、被害跡地の森林がどのように変化して回復して行くかを昆虫および植物の生物多様性を指標として明らかにしていくことを目的とする。

## ．調査内容

単木的予防法の検討を行うため、ミズナラ立木の高さ 0～4 m までの樹幹表面に速乾性接着剤を用いてコーティングした。

ナラ枯れ跡地の生物多様性調査を行うため、ナラ集団枯損被害が未だ発生していないプロット 1、進行中のプロット 2 および終息したプロット 3 を設置した。

各プロットにマレーズトラップ 3 基およびベンジルアセテート（花のにおい）を誘因剤に用いた水盤付衝突板トラップ 5 基を設置して、5～10 月まで毎週、トラップの回収を行った。各プロット内において DBH4cm 以上の全立木、54 個の 1 m 方形区内の植物および 1 m 方形区を含んだ 3m 方形区の全立木の DBH および種を記録した。また、鳥類及びきのこと群集についても調査を行った。

## ．試験結果

防除試験を行った立木および対象木で穿入は見られなかった。プロット 1～3 でカミキリムシの種構成で違いがみられた。その他のグループについては分類同定中である。プロット 2 および 3 では枯死した立木周辺に先駆的な木本の幼樹がみられた。鳥類及びきのこと群集については、各プロットに大きな違いは見られなかった。

## ．考察および今後の課題

この被害によって昆虫類および木本類で一時的に増加する種や減少する種の存在が示唆された。これらのことは今後 2 年間の調査で明らかにしたい。